

## 嵐 5人で休止決断「こんなに話す時期なかった」会見詳報

有料会員限定記事

嵐、活動休止

2019年1月28日00時47分



会見中、リポーターの質問に笑顔を見せた嵐の（左から）相葉雅紀さん、松本潤さん、大野智さん、櫻井翔さん、二宮和也さん＝2019年1月27日午後8時38分、東京都港区、西畑志朗撮影

男性5人組の人気アイドルグループ「嵐」が27日夜、東京都内で記者会見し、来年12月31日で活動を休止すると発表した。主な内容は以下の通り（「大野」は大野智さん、「櫻井」は櫻井翔さん、「相葉」は相葉雅紀さん、「二宮」は二宮和也さん、「松本」は松本潤さんの発言。敬称略）

大野：本日はお忙しい中、急なご案内にもかかわらずお集まりいただきありがとうございます。先ほどファンのみなさまへ向けてコメントを発信させていただきました。改めて、僕たち嵐は2020年12月31日をもってグループとしての活動を休止させていただくことになりました。大変勝手ではございますが、僕たちの口からみなさまへお伝えさせていただきたく、この場をもうけさせていただきました。本日はよろしく願いいたします。

——改めてこの結論に至った経緯を教えてください。

大野：2017年6月中旬ころにですね、僕がメンバー4人で集まってもらって、自分の思い、気持ちを話させていただきました。自分の嵐としての活動をいったん終えて、自分の思いとしては、自由に生活を一回してみたいとメンバー4人に伝えてですね、その後、何度も何度も話し合い重ね、期限というものを2020年をもって嵐を休止するという形になりました。

——話し合いというのはどういう形で行われて、どこで納得できたのか具体的に。

大野：そうですね、2017年6月中旬に初めて4人に集まってもらってから、自分の気持ちを打ち明けたあとは、メンバー一人ひとりと個々にあって、一人ひとりの思いもちゃんと聞いて、その後はまた5人で集まってですね、それは結構な回数ですけど、何度も何度も話し合っていて、最終的に事務所の方々と交えてのお話し合いをまたさせていただいた。2018年の2月に事務所の方に報告させていただいて、それからまた話し合いを重ねて2018年6月に決断いたしました。

——大野さんにお尋ねしたい。ファンへのメッセージに「何事にも縛られず、自由な生活をしたい」とあったが、具体的にそれはどういうことを意味しているのか。

大野：そうですね。具体的に何がしたいかというのは僕の中では決まっていることではないんですけど、ちょっとなんていうか、自由な生活というのは、この世界を一度離れてみて、いままで見たことのない景色を見てみたいというか、普通の生活というのはいままでこの世界に入って経験していないなというのもあり、そういうことにも興味というか、あり、そういうことであるんですけど。具体的になにがやりたいということはないんですけど。

——自由な生活をしてジャニーズ事務所のタレントであり、そして嵐の一員ではあるということか。

大野：そうですね、最初は「活動を終わりたい」とみなさんにご報告をしたとき、やっぱり終わりたいという思いになったとき、やはりこの事務所を辞めなくては、けじめというのが自分のなかではつかないなと思っていたんですけど、メンバーや事務所の方々と話していく中で、お休みということでもいいんじゃないかということに、話し合いのもとそういう形になったので。だから所属は所属ではあるんですけど、自分のやりたいことはまだ見つかっていないんですけど、ゆっくり休んで考えたいなということです。

——大野さんの思いは、何かきっかけになることはあったのか。

大野：きっかけというのは正直ないというか。いついつ思ったかというか、だいたい3年くらい前からそういう気持ち思いが芽生えて、どんどんそれがつよくなっていったというのが現状というか。

——ハワイ公演が終わった後ということか。

大野：終わってちょっとたって、仕事をするようになってそのあたりから、自分の気持ちに変化があらわれてしまってますね。

——ハワイの景色は特別でしたよね？

大野：そうですね。そこで日本にもどってきて、具体的なことは覚えていないですけど、15周年がおわってから、個人の仕事をやらせてもらったりするなかで、徐々にそういう気持ちが芽生えてきましたね。

——達成感があったのでしょうか？

大野：達成感？ 達成感正直、10周年のときだったり、その15周年のときにはもちろんありましたけど、そこでやりきったっていう感覚では僕の中ではなかったんですけど、ハワ

イのときもその気持ちはなかったの。本当に徐々になんですよ。

——大野さんは2021年は芸能活動はお休みをされるということか。

大野：そういうことですね。はい。

——お仕事はしばらくされない。

大野：そうですね。1回自分を見つめ直す期間というか。1回立ち止まってみようかなという。仕事に関してはちょっとお休みを。

——それは何年くらいだと、ご自身の中では思っているのか。

大野：そこまではちょっと具体的なことは考えていないんですけど。2020年いっぱい、嵐として走りぬいてから、自分のそのときの気持ちだったり、お休みしている間に自分の思うことはでてくると思うので。今はちょっと分からないです。

——ファンには再開を待ち望む人もいるのでは。だいたいでどのくらい？ 疲れてしまったということであるのか。

大野：本当に……。

メンバーが口々に：決まっているの？ 言えるの？ 俺らも知らないんだけど（笑）

大野：決まってないんですよ。すみません。

——疲れたからお休みというわけではない？

大野：疲れちゃってというか、そういうことでは自分の中ではなくて。1回離れてみて、1回立ち止まってみて、自分を見つめ直したいというのがでかいですね。疲れているとかではないですね。

——改めて聞くが解散ということではない？

松本：解散ではないですね。

——大野さんから聞かされたとき。それぞれどう思ったか。

二宮：いや衝撃でした。そんなこと考えていなかったの、いわれて驚いたんですけど、色々話し合いをすすめていくなかで、やっぱりずっと僕らが言っていたことは、4人でも6人でもそれは嵐ではないと我々はやっぱりすごく思っているし、自分たちの嵐という世界の中の価値の基準の中でずっと戦っていたグループでもあるので、5人でなきゃ嵐ではないだろうと、5人でなきゃ100%のパフォーマンスはできないだろうという中で、今回リーダーのその思いを尊重する形で結論に至ったっていうのが、僕個人的な目線ではありますが、みんなで話し合っていく中での決め方ですね。

櫻井：みんなバラバラだと思うんですけど。僕は驚きましたね。グループメールのところに大野から「話したい」と連絡があったんですよ。これだけ長いこと一緒にいる我々ですから。「話をしたい」ってその後の内容を聞いたときに、これは相談というニュアンスというよりは、ある程度意思が固まっていることなんだろうなと僕は個人的に解釈しました。一番最初はものすごく驚きましたけど、誰か1人の思いで嵐の将来のことを決めるのは難しいだろうなという思いがあると同時に、ほかの何人かの思いで1人の人生を縛るということもできないだろうなと思いました。なぜなら、我々は中学生のころに出会って、23～24年一緒にいる大切な仲間ですから。どれだけ時間かかっても、かかってもというか、むしろどれだけ時間をかけても全員が納得する形の着地点を探していかなければならない、これはもう僕の役割だろうなと、それはその瞬間に思いました。

——終えたいと言われたときに、引き留めたのか。

櫻井：そういった意味でいうと、引き留めたという立場でもないです。大野の思いを理解したというところで。じゃあそれで5人で。僕を主語でいったら他の4人の思いをきちんと着地させるのはどこだろうというところをたくさん時間をかけて探していかなければならないなとその瞬間思いました。

松本：僕は常々、グループ活動が続けることはメンバーの強い意思があって初めて、グループっていうものは続けられるものだと思っていたので。それこそさっきもおっしゃっていただきましたけど、僕らは10周年のときにたくさんの方に祝っていただいたり、国立競技場でのライブをやらしていただいたり、15周年のときはデビューしたハワイにつれてっていただいたり、ハワイでいろんな方たちにお祝いしていただいたり。本当にすばらしい景色をたくさん見せていただきました。そのなかで、自分たちが本当にいろんなことを経験させていただく中で、次なにやろう次なにやろうってみんなで話し合ってたんですけど、そのなかで大変だと思うことも正直ありました。その中で、自分たちがいいかたちであるうちにグループをしめるということを実際にかんがえたこともあったし、その話をメンバーにしたこともありました。具体的にこの時期にしたいとかそういうことはなかったですけど。なので一番最初にリーダーに呼ばれて話をきいたときに、僕は驚きはしませんでした。そのあとにみんなでいろんな話をするなかで、それぞれの思いもありますし、これからのことを考えたときに、このタイミング、2020年で区切りをつけるというのがベストな形なんじゃないかと僕はそう判断しました。

相葉：僕は初めてリーダーから話をきいたときにひっくり返りましたね。

櫻井：ひっくりかえってたね、僕の右でひっくりかえっていた。

相葉：こういう生活が当たり前だと一回も思ったこともないですけど、まさかこんなに現実で突きつけられたときは、やっぱ最初は準備がいりましたし、リーダーと2人で話をする中で、「どうにか嵐を続けていける方法はないのかな」とリーダーに相談したりもしました。でもリーダーとみんなと話し合いを続けていく中で、ちょっとでも同じ方向を向いていないリーダーをずっと付き合わせるのは違うなと思いましたし。そこで1人欠けてしまっっては、2人欠けてしまっっては、嵐としては難しいと思ったので、リーダーの意見というのを納得して、そっちの方向で進めていことになりました。

櫻井：時間はかかりましたよ。当然。すぐの結論ではないですし、我々5人だけで、あとそれぞれが活動を……。どれくらいだろう。17年6月から年明けまで数カ月間、ずっとたくさん話し合いを何回もした。

——大野さんは受け入れてくれたメンバーに対してどんな気持ちか。

大野：正直本当に申し訳ない気持ちがすごく強いですけど。一人欠けては嵐ではないということは5人の中では心の中であつたので。勝手ではありますけど、期限も決まって、メンバー個々の思いを僕のなかで感じながら2020年いっぱいまで大切に走っていかうかなと思ひましたね。

——メンバーの中で反対した人はいましたか。

二宮：反対というか、できませんかという相談はしました。やっぱり「はい。わかりました」というのはあまりにも責任感がないですし、グループやってきた年数っていうものがありますから、急に二つ返事で「じゃあ、わかりました」っていつて翌週事務所の人に言いに行つてっていうことはちょっと。なんていうのかな、責任感的にできなかったというか。僕もリーダーとご飯を食べにいったときに「なんかできる方法はないのか」っていうことはいつていましたし、リーダーも本当にぎりぎりまで考えてくれたなという印象でした。

櫻井：賛成・反対でパキッて分かれるのは難しいかもしれないですね。それぞれに気持ちに、思いがそれぞれあるので。誰かがさっき言つてたけど、引き留めようとしたというニュアンスの人もいれば、おそらくじゃあ気持ちを理解して、一緒にその方向で頑張ろうかという人もいるでしょうから、反対とか…ごめんなさい難しいですね。

——時間がかかったなかで、何に一番時間がかかったのか。

櫻井：みんなの思いがきちんと同じところに着地することです。5人、たとえば我々が五角形だとすれば、真ん中をどこに落とし込むかという話をひたすらにしていました。そういった意味では我々20年以上一緒にいるので、互いが互いを尊重し、「そんなバカな話はある得ないわ」って言つてひっくり返す人は誰もいませんでした。

——けんかになったり言い合いになったりということは

松本：ないです。

二宮：それ、書きたそうですね。

相葉：うそでもしておけばよかったな。

二宮：そういうのはないですね。

——相葉さんのメッセージの中で「決して僕たちは仲が悪いわけではありません」というのがあえて書かれていたのが気になった。お互いの意見の食い違いが生じてちょっとずつ溝ができたということでは全くない？

相葉：そういうことではないですね。そう勘違いされちゃうかなと思って、そういうことはなかったのが本当に。だからかかせていただいたんですけど。逆に話し合いも何度もし、20年という月日は一人ひとりとの絆はどんどん強くなっていますね。

松本：こんなに話す時期なかったですね。というくらい個々にもそうですし、全員でもあつまって本当に話しましたね。

——大野さんは何度も話し合った中で、このメンバーのこの言葉、この態度が印象に残ったということがあれば。

メンバーが口々に：覚えている？ 覚えていないよね。

——全員の一つずつでもかまいません。

大野：本当に何度も話したので。話し合いをさせていただく中で、最終的に期限というか2020年いっぱいときまったときに、意見がまとまって、気持ちがまとまってきたときに、メンバーが最後まで笑っていようといわれたときは、まあやばかったですね。

——涙が？

大野：正直、素直に申し訳ない気持ちももちろんあるなかで、「なんて人たちだろう」って単純に。嵐でよかったなとか。言葉にならなかったですね。

——今回の件、事務所の先輩、どなたかに相談しましたか？

？ 大野：先輩に相談という形は僕は（ない）。5人もたぶんそうですけど。今回では5人で決めました。

——期限を決めずに休止する。2020年以降、ほかのメンバーはどうするのか。

相葉：ただ、今はどんな気持ちになるのかとか想像もつかないですし。今は決まっていることを、決められた時間のなかで精いっぱいやって、その後にどう思うか。でもお休みするとかそういうのではないですね。僕は。

松本：今までやってこられなかったことに、新たなチャレンジができるタイミングにもなるかもしれませんし。そのタイミングで何かチャレンジしたいと思うこと、具体的に決まっているわけではないですけど、なにか探して、それがみつかった際には、そういったことにチャレンジできるタイミングになるかなと思っています。何より2020まで5人で、そしてファンのみなどと楽しい時間を過ごせるようにいろいろ考えるということがいまからすることかなと思っています。

櫻井：そうですね。グループ活動をやっているのが、当然選択肢としては、1人休んでも2人休んでも嵐ですという選択肢も当然あったわけですね。ただ我々は5人じゃないと嵐じゃない、5人じゃないと続けないという選択肢をとった。それが2020年12月31日までという期限を今日をもって発表させていただいた中で、僕は嵐が2020年12月31日までということしか頭になくて、その先自分がどうするはちょっと想像できていないんですよね。嵐のことで頭がいっぱい。

二宮：僕も結構同じで、2020年以降、21年からの1人でっていうことに関しては正確にいうと何も考えていないです。だから20年のケツのケツまで、5人で活動できるというのは僕の中でものすごい幸せで喜ばなことなので、まずはそれをちゃんとしっかり応援してくださっている方々と共有しながら、一個でも一秒でも長く作っていききたいなということしか考えていません。

——嵐という冠が付いた番組も2020年で終わりということになるのか。

松本：まだ直接スタッフの方とお話しさせていただいていないので、いつまでというのも分からないですし、僕らがまずはファンみなさんに発表させていただくという形をとらせてもらったので、今後番組のスタッフの方々ときちんにご相談させていただいた上できまってしまうことになると思います。

——思い出されるようなイベントであったり楽曲であったりはあるか。

二宮：いやでもなんか、それってたぶん解散とかそういったときに思い出すものかなって。ひもづけとしては。僕らは一回止まらせていただくということなので、本人と見ていただいている側との温度差というか、明確なものがあればいいんですけど、なんていうか、平たく言うとなんかというか。ありすぎるというか（笑）、かなという感じがしますけどね。

——先ほど松本さんも休止したい思いがあったと。5年前のテレビ番組で、大野さん、二宮さん、櫻井さんの3人がやめたいと言っていたと思うが。

櫻井：デビュー当時のことですかね？ 嵐になった後には正確には一度もない。結成当時の話だと思う。嵐が結成される、（自分が）メンバーになるという風になるときはこんなことが起こりうるとはおもわなかったといったと思う。

松本：携帯の電源をオフったときですよ。

——何度も何度も話し合って話をするうちに絆が強まり、お互いの気持ちがわかったと。誰の言葉が胸にしみたかということをそれぞれ。

大野：ここというか、意見がまとまって気持ちがまとまったときの笑顔で「最後までいこう」というときの。あとは個々と会ってコメントでも発表させていただいたとき、そういう言葉をもらったというか。4人がひとりひとり納得という形に持っていった話し合いを。僕の中ではそれですね。変にもめることもなく、ぶつかりあうこともなく、僕の思いも含め、4人5人で落ち着くところに持っていった4人の思いというか。5人で嵐なんだなということを感じましたね。

——それは言葉でなにか言った？

大野：言葉が出てこなかった。ぼろぼろになっちゃいそう。涙とともに。はい。

——メッセージをどう受け止めていいかわからないファンもいる。現段階でもいいので、休止までのあと2年間、ファンへの要望はあるか。松本さんの文章には楽しんでほしいという言葉ありましたが。ファンへのわがままがあれば。

松本：ありがとうございます。いや今までも楽しくやらせてもらいましたし、ねえ、いやあ感謝しかないですよ。だってライブでいったら、ファンの方がペンライトを買ってくれたからこそみられる絵みたいなのもありましたし。毎公演その景色を僕らが見られているので感謝しかない。

櫻井：これまでもわがまま聞いてもらったシチュエーションあると思っていて、初めてドーム公演やらせてもらったとき、もともとアリーナサイズの公演だったんですけど。当然大人になってわかるんだけど、スケジュールのこととかありますしね。そりゃ近くで見るならアリーナで見る方がいいという方もいたと思う。そういった僕らのわがままさんざん聞いてもらったので、質問に答えるとしたらこれが最後のわがままなんじゃないですか？

——ツアーの予定はすでに発表された。ファンは泣いててもいいんですか？ それとも笑顔で？

松本：そりゃもちろん楽しく過ごせたらと僕らは思うけど、みなさんは思いは違うでしょうし、僕らの決断を理解してもらうことは時間かかることだと思うので。それはきてくれるだけでうれしいし、来てくださったなかで、僕らの曲をどういう風に聞いて、パフォーマンスを見てどう思うかはお客様次第だと思う。

——櫻井さんにメッセージをいただきたい。いま勉強が手についていない若い学生さんへ。

櫻井：学生は勉強が本分だとわたくしは思っております。学生のみなさん、勉強も頑張ってください。私は中学生のころより芸能活動をし、勉強も頑張ってきました。皆さんの番です。勉強、頑張りましょう！ こういうことでいいんですか？

——確認なのですが、2020年までというこの区切りの理由は？

櫻井：まあ二つありまして、さきほど松本も言っていたとおり、時間をかけてたくさんの方に感謝を伝えたい。あと、テレビ局、スポンサーの方々、お世話になっているスタッフの方は数え切れないほどいますので、できる限り説明をして、納得をしていただけるようにしていきたい。「行動していきたい」という時間です。

——仕事が決まっているから、2020年ということもある？

櫻井：誰か聞いている？

相葉：ライブはね。やりたいことはいっぱいありますけど。

——やりたいことというのは？

松本：コンサートツアーと同時に、20年やってきたことをお祝いできるイベントみたいなのもやりたいですし、また、10周年のときも出したけど、20周年をまとめたベストアルバムも出したいですし、ビデオクリップみたいな。やりたいことばかりですね。

——大野さんは？



大野：いやもうこの2年間でできることを。ファンの方々への感謝の気持ちを、ライブだったりこれからみんなで考えていきたいと思いますね。

——大野さんにとって嵐は？

大野：もう、言葉が難しいんですよね。これ。宝物以外の何物でもないというか。僕の人生には嵐というものが、20年という人生の半分以上が嵐。永遠に輝き続けているものっていう。心の中でっていう思いです。はい。

——ジャニーさんには報告したか。

大野：はい。

——どんなことか。

大野：ジャニーさんはですね、僕が決められることでもないと思うし、これは本当にみんなで決めていくものだと思うと、その中でこの20年という年月、よくがんばってくれた、ありがとうという言葉いただきました。

——コンサートの開催は2020年と決めた後できめた、感謝を伝えるコンサートなのか。

櫻井：それもある。考え始めたときに僕らの考えが着地していたわけではなかった。これだけの本数やることにしたのは、全国のみなさんが、毎年見られないかたがたくさんいるという現状がありましたので、20周年という区切りの年にお祝いできる年に、たくさんの人に見てもらいたいことがあったので。

——デビュー記念日にもコンサートがある。何かするのか。

松本：何かできたらいいですけどね。たくさんの方たちに見ていただくことにしたい。11月3日というデビュー日に限っては、見られる人は限られてしまうので、よりたくさんの方と共有できるように見られるようにしたい。頑張ります。

——この発表でツアーの構成は変わるのか。

松本：この発表を理由に変わることはありません。自分たちのリリースによって多少なり変動するかもしれないけど、この発表後に続くツアーを考えてつくっている。変わらないです。

——20周年の記念の年に。コンサートの中でもすごく5人を意識させてくれる内容だったと思うが、あえて前に打ち出したのか。

松本：あえてというか自然にそうなった。それ以外になんか。それが一番見せたかった。

——5人で嵐？

松本：そうですね。

——多大な功績に「お疲れさま」という声の一方で、無責任ではないかという指摘については。また、今の説明でいうと、大野さんが決断の矢面に立つというか悪者になっている可能性がある。ほかのメンバーも、自分のなかで区切りをつけたかったという思いはなかったか。

櫻井：無責任というご指摘に関しましては、我々からの誠意は、およそ2年の期間かけて感謝の思いを伝える期間を設定した。これは我々の誠意です。なのでそれが届くように、たくさんの言葉を届け、たくさんの人に届くようパフォーマンスを見てもらい、その姿勢と行動をもって無責任かどうかという判断をしていただく。

もう一つの質問は矢面に立つという質問でしたっけ。休止にすることに関してですね？僕は、なかったです。リーダーのせいでこうなったとか、同じくらいゼロに感じています。もちろん人間なので絶対はないですし、無限もないわけで、ある方が気持ち悪いと思っています。そのポイントどっかで置く必要あったと思っていましたが、この現状、時期については思っていなかったけど、みんなでやりたい、やりたくないときにやらないですけど、みんなで共有して決断するので、なので、リーダーが悪く見えてしまっていたら我々の力不足です。

——この会見が終わって、ファンの皆さんにも会見の内容が伝わる 때가くる。ファンの皆さんもまた困惑する方も多いと思う。そんなファンの皆さんにどう思うか。どんな一言をかけたいか。

大野：まあ本当に突然の報告で申し訳ないという気持ちも含め、やはり理解をするのに時間がかかるとい、僕らの話し合いを重ねて2年間という期間で、いろいろ感情があると思うんですけど、やっぱりそれを感じながらこの2年間でできるだけファンの皆さんを楽しませることを、これからたくさん考えて、1日をムダにせず、感謝を返していけたらと一番考えていますね。

松本：そうですね。本当にこうすることになってしまい申し訳なく思っています。ですがリーダーが言ったように、20年までの時間をかけ、明日から、今日発表させていただいたことで、僕ら自身も前向きにやっていきたいので、番組に出た際の空気を確かめてもらえたら少しは安心してもらえるかなと思いますし、そのなかで自分たちの思いを伝えていけたらと思います。

櫻井：やっぱり嵐じゃないとかなえられない夢もありますし、嵐じゃないと見られない景色も山ほどあると思う。でも2年かけて、どうかファンのみなさんも、景色を見るために一緒に走っていただけたらという風に思います。

相葉：本当に驚かせてしまった思いと、申し訳ない気持ちもありますし、ただその僕らはもう、決められた時間、見てくださる皆さんを楽しませる。それに全力を尽くして、あと2年間は頑張らせていただきます。

二宮：混乱をさせてしまったり、ごめんなさいと思っています。だから、みんなが言っていたように、残り2年近くみんなで楽しむためにも、あまり前を向きすぎずに、2年間やっていきたい。ファンの子たちを見ながら、向き合いながら、僕らしく、やっぱり嵐っていいなって思ってもらえるような2年間にしたいと思っています。

——2017年6月に、まさかそういう話し合いがあったとは、というファンの気持ちあると思う。当時、大野さんがグループラインに呼びかけたとのことだが詳細を教えて欲しい。

大野：ちょうど5人でなかなか集まれる機会がないときに大阪で5人で仕事があったときに、その前の日だったかな。仕事終わったあと、僕の部屋にあつまって。ちょっと話したいことがあると。仕事が終わって、みんなが僕の部屋に来てもらって。そのときはいつもの僕らの会話をしながら。正直なかなか切り出せなかった。いつもの空気が自然と起こるもので。4人も何を話すのかという空気もありつつ、僕も「いつだろう」と思いながら自分のタイミングで話した。「ちょっと聞いてもらいたいことがある」と。そこで。

——どんな一声を？

大野：そうですね、まあ。ちょっと、「みんなに集まってもらったのはちょっと気持ちを、思いを話したいことがあるので」と。それがきっかけで自分の思いを話しました。

——その次に言葉を発したのは。

二宮：覚えていないんですけど。さかのぼると、僕個人的な観点では6月16日なんですよ。僕はひとりで「これ誕生日を祝ってくれるのだろう」と。「さすがリーダー、いい頃合いだな」と考えていた。だから僕は衝撃だったと言っているんですけど。「誕生日おめでとう」というのがあると思ったら、「こうこうこうだ」というのがあって。「えー」って言いました。

松本：そのあとだね、祝ったのは。

二宮：やっぱちょっと、「とりあえず今は、ごめん祝って」って言って、乾杯しました。

大野：小さく「ニノ、ごめん。おめでとう」って。

——十分な英気を養ったら、再び5人が嵐を巻き起こすのが見られるのでしょうか。

松本：これやっぱ、相葉君じゃないですか？

相葉：僕デビューのときに、「世界中に嵐を巻き起こしたい」って始まった20年なんですけども、まだね、実際に巻き起こせていないと思うので、リーダーが同じ方向むいてくれたときには巻き起こす、でいいんだよね？

大野：巻き起こしちゃいますね。

相葉：向いたときには、いつの日か。はい。

——ということは、この活動休止は嵐の前の静けさということでもいいんですよね？

二宮：一生懸命考えたのね。その通りですよ、ありがとうございます（笑）

——大野さん以外の4人にとって、大野さんはどういう存在でしょうか？

松本：これね、リーダーだけじゃなくて、本当に「メンバー」「嵐」という以外に形容のしようがなくて、家族とも違うし、友達でもないし、なんかそれ以上じゃないですかね。

相葉：このメンバーじゃなかったら20年できなかったよね。

松本：うん、そう思います。

——櫻井さんは？

櫻井：共感、その通りだと思って聞いていました。

二宮：すごく優しい人だと思います。怒ることはなかったし、本当に怒ったところ見たことないし、でも一緒にメンバーにつらいこととか悲しいこととかあると、ちゃんと親身に話聞いて近くにいてくれたりもしましたし、なんかあだ名は「リーダー」みたいにプロフィールに載っていても、ずっとニコニコしてた。そこまで激情だったり、波みたいなのが、今までも1回もない、優しい人なのかなと思います。

——去年のデビュー記念日。マネジャーの配慮で休みになり、食事に行った。休止ということが決まっているなかで、どんな話をしたのか。

メンバーが口々に：人間ドックの話をしたよね。

健康の話をしたよね。

行った、行っていないとか。

ジャニーさんに電話したよね。

したね。

ちょうど20年だからね

そうそう。

みんなでスピーカーにして、みんなで話して。

——ジャニーさんには何を伝えたくてお電話したのですか？

松本：「20周年のデビュー日なんだよ」という話をして。「おかげさまで。ありがとうございます」という電話でした。

櫻井：あとはコンサート前だったので、コンサートの話とかをしていましたね。本当に普通の誕生日会です。嵐の誕生日会をやろうって。楽しかったです。

——改めて、なぜ2年前のきょうの発表となったのか。それはファンの皆さんのためを思っていることなのか。

櫻井：先ほどお伝えしたとおり、時間をかけて感謝の思いを伝えていきたいと。ご説明もしていきたい、という思いがあるのと同時に、先ほど20周年のコンサートツアーも発表していなかったところ、これを発表する時期も迫っていましたので、この決断を知っていただいた上で、コンサートの申し込みを受け付けたいということです。

——きょうの皆さんの休止のニュースは「フェイクニュース」だと思うくらい衝撃的だったのですが、改めてみなさんが2年後に休止することを発表したい今の気持ちをそれぞれお聞かせいただけますか？

大野：ちょっとまあ、発表する前もなかなか想像でしかなかったけど、なかなかどうなるか、いまだに実感は正直ないですけど、自分でこのコメントを口にして、ちょっとなんかこう、本当にあと2年のなかで、自分の中で覚悟を決めてまっとうしなきゃなという思いがどんどん強くなっている現状ですね。

相葉：そうですね。本当にもう、ずっとそわそわしていて、落ち着かない感じはしていたんですけれども。本当に、決められた時間を僕は全力で後悔しないように、後悔しない時間にここからはしたいです。

松本：そうですね。うーん、この発表は早かったとも遅かったとも言えないと思っているので、いつか発表しないといけないことですし、僕自身も早い遅いの感覚はないです。自分たちが誠心誠意、皆さんに思いを伝えた上で、5人で走っていこうと。走り抜きたいということですからね、今思っているのは。

櫻井：ファンのみなさんの思いと、お世話になっているたくさんのスタッフの気持ちを考えると、この日がこなければいいなという気持ちが半分と、我々はもう昨年の6月に出した結論でしたので、やっと伝えられたな、という複雑な思いですね。

二宮：本当に変わらず、今まで通り、らしく、この2年間はやっていきたいと思っています。この時期に発表になったというのは、僕らというよりも、応援してくださっている人たちの心の整理とか準備の時間に必要だと思っていますし、2020年にいきなり休止しますと発表した時に、「あれがそうだったんだ」「これがそうだったのだ」と後日談でつなげていくよりも、「いま、いま、いま、いま」という、この今の瞬間を、みんなで共有していきたいという思いもあったので、この時期になりました。なので、ぜひそれを一緒に共有していただけたらと思います。

——活動休止期間なんですけど、大野さんが同じベクトルを向くまで続くということなんでしょうか。そして、万が一それが向かなかった場合、嵐がどうになってしまうのかという不安や心配があると思うんですが、そこはいかがでしょうか。

大野：そうですね。僕がこうお休みさせていただいて、また5人で何かをやるという、具体的なことはまだ正直決まっていらないですが、お休みするなかで、僕自身もやはり、一応所属するという形なので、個人的にもう勝手に思っているというか、やっぱりこう、あまり、なんて言うんですかね、ビジュアルだったり、体形だったりキープしていこうと思います。それはすごく、やっぱりテレビにあまり出なくなるって、やっぱりいきなり老け込んだりするじゃないですか。やっぱりそれが怖いので、4人以上に気をつけてお休みしようかと、すごく思います。

松本：休めるの、それで？

大野：いやいや、でも、そこはやっぱ、もし5人で再開した時に、1人だけ「なんだあいつ」となるのはちょっと嫌だなあという思いがあるので、極力気をつけて行動したいなと思います。

——仕事への情熱がなくなったというわけではない？

大野：そういうわけではないです。本当にもう、仕事には感謝でしかないですし、そのなかで1回こう、足を止めて考えてもいいかなという決断ですね。はい。

——もし大野さんがそのベクトルに向かなかったときに関して、ほかのメンバーいかがでしょうか。

松本：それはでも、ずっとやってきたメンバーなので、逆に言うと僕らが「やりたいんだ」という話をリーダーにすることも、なかなか簡単にはできないと思うんですね。それも、今回リーダーが僕らに伝えてくれたのと同じように覚悟がいることだと思っているので、そうするためには感情論だけでいえるものでもない気がしますし、話をして、仮に4人が気持ち固めて、「じゃあやろう」って話の仕方をするかどうか分からないですけど、仮にそうなったとして、リーダーがそこで「いや、今じゃないと思うんだ」と言ったら、それが僕らのやってきたこと、その時やっていることの成果であるのかもしれないですし、どうなるか分からないです正直。見えないですし、でもだからこそ、また5人で再開できる日があったらいいなという風にも思いますし、先のことはちょっと明言できないですが。

——大野さんはこれまでも自由に絵を描いたり、釣りをしたり、結構自由なことをされてきたと思う。

メンバーが口々に：いろんな才能があるからね。

そうそう（笑）

——自由にできなかった、普通の生活をしてみたいと。そういったところと、皆さんがやっぱり最初に「辞めたい」と言った時に、辞めるのではなくて、休止という風に説得というか、心が変わったというのがあると思うのですが、そのあたりを。

大野：たしかに、好きな絵とか釣りはさんざんさせてもらいました。まあそのなかで、本当に正直こう、この仕事をしていると、もう先のことが決まっていたりというなかで、自分の中でこう、1回お休みをするなかで、なんか常に何かをすごく、責任とともに、例えば釣りをしているでも「明日は仕事だ」とかこう、いろんなものが入ってきてしまっている自分がいて、それを1回自由になるためには、なくすじゃないですけど、それこそお休みをすることなんだろうと。そういう自分にも1回なってみたいなという思いもありますね。ただ、お休みをいただいて、本当にゆっくりすると思うんですよ。そのなかでやりたいことが見つかるなかで、自由に、何も気にせず絵を描くかもしれないですし、なにかちょっと今までとはまたちがう、縛られるものだったり、それを1回払ってみたい。そのとき、自分が何を思う、何をするのか、というところに興味があるのかな、という思いですね。

あとは、最初やっぱりこの決断は自分の中ですごいことだと思ったんで、やっぱり活動を自分の中で活動を終わらせたいという思いとともに、やっぱりこう、たとえば自分の中ですけど、「3年くらい1回辞めたいな」なんていうことは、自分の中で、そんな都合のいいことはないと思っていたので、やっぱりはじめとして、ジャニーズ事務所を辞めることだろうと自分のなかで思っていたので、メンバーと事務所の方々と話していく中で、「そこまでは必要ない」じゃないですけど、「お休みでいいんじゃない？」という言葉が入ってきたなかで、「そういう形でもよろしいんですか」というか、その言葉に甘えたというか、そこに着地しましたね、最終的には。

——それぞれのメンバーと話し合いをしたということですが、大野さん以外の4人のメンバーで話することはあったのか。

櫻井：いや、なかったんじゃないですかね。それぞれがそれぞれに、ということはありませんでしたけど。たとえば、僕と二宮、松本、相葉と、とか。大野1人を抜いて4人でというのは、一度もなかったと思います。それだったら5人で話していますね。

松本：4人じゃないとはなせないということもないので。僕自身もそれぞれと話したし。

二宮：4人で話しても意味がないというのが一番の理由で、やっぱりずっと5人でやってきているんだから、5人で話すのが筋というか、嵐のことなので5人で話すというのがみんなの中にあったんじゃないかなと思いますね。

櫻井：その時期は本当によく会ってましたので、僕ね、これは他のメンバーにも言えると思うんですが、嵐がうちにくるのは本当に緊張するんですよ。松本君、分かるでしょ？

松本：なんの飲み物を用意するか、から始まり、椅子をどう出すのかとか。

二宮：日に日に乾杯のボリュームが小さくなっていった（笑）。最初は結構なボリュームで言ってたんですけど。絆は過去最大に太くなっていると思います。

——たくさんのご質問ありがとうございました。最後に嵐のメンバーから一言ずつごあいさつさせていただきます。

相葉：そうですね、僕は本当にこの4人に会えたことに本当に感謝して、本当にファンの皆さんにはいろんな景色をみせていただきました。本当にありがとうございます。あと2年間というのは、全力で楽しんでもらえるように精いっぱい頑張らせていただきますので、最後の最後までみなさん、どうか嵐をよろしく願いいたします。

松本：まず皆様、日曜日の夜に、そして発表から時間がない中でお越しいただき、ありがとうございます。いま、自分たちが直接伝えさせていただいたことが、何よりファンの皆様にきちんと届いたらいいなという風に思っています。そしてファンの皆さま。僕らはそれぞれ、いろんなことを話し合った中で決断を出しました。その中で一番強く思うことは、それぞれ嵐が好きだということ。それぞれが嵐を好きな思いをもって、これから歩んでいこうと思っているので、残り2年になりますが、最後までついてきていただけたらと思います。今後ともよろしく願いいたします。

大野：本当に、急な報告で、たくさんの方を驚かせてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいです。本当に何度も何度も、5人で、事務所の方々も含め、話し合ってきた結果です。なので、残りの約2年ありますけど、嵐、僕らでできること、そして僕個人でもできることをこれからみんなで考えながら残り2年間、嵐として走り抜きたいと思っています。なので最後まで、よろしくをお願いします。

櫻井：本日はお忙しいなか、こんなに夜遅くまで、今日この会場に入られない記者の皆さんも別の部屋にいらっしゃると思いますけど、本当に夜遅くまでお付き合いくださり、ありがとうございました。嵐はこの5人じゃなきゃ嵐じゃない、という強い思いがあると同時に、この5人じゃないと嵐はつukれないという思いを抱いています。いま私たちの周りには信じられない数のファンの皆様と関係者の皆様と、そしてスタッフ。そんな皆様に嵐は支えていただいています。ここからおよそ2年、嵐は駆け抜けていきますので、どうか同じ夢を、同じ景色を見ていけたらな、一緒に走っていけたらなというふうに思っております。これからの2年間、嵐をよろしくをお願いします。ありがとうございました。

二宮：思いというのは、本当にいまみんなが言ったように、それがすべてで、僕も同じく思っています。だけど、そのマインドは常に持ちながら、今までと変わらず、この20年間やってきたことがうそにならないように、我々らしく、嵐らしく、5人でみなさんと一緒に思い出を作っていけたらなと思います。とにかく、もちろんリーダーが発端でこういう決断をしたというのはあるけど、僕ら4人も休むわけで、しっかりと休めるように、ここからの2年間というのは全力で、一つ一つの仕事に向き合って、自分たちらしい形を残していきたいと思っておりますので、それまで、一緒に楽しんでいただけたらと思っています。これからもよろしくお願いいたします。（完）

---

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.